

福島復興のための
土地提供
きつとご先祖様も
許してくれる

もり ひでき
森 秀樹

双葉町郡山行政区役員

昭和25年(1950)、双葉町郡山生まれ。

震災時は民生委員として町とともに川俣町、さいたまスーパーアリーナ、加須市へと避難。母の入院を機に東京へ移り、娘家族と避難生活を送る。現在、いわき市で娘夫婦と暮らす。

中間貯蔵施設の受け入れに際しては、齊藤芳彦さん、福岡渉一さんとともに地域住民の声をとりまとめました。この先30年も帰れないのなら、先祖代々受け継ぎ、育んできた土地に、中間貯蔵施設を受け入れることが、土地の有効活用になるのではないかと。それによって、県民はもとより、多くの国民に希望を与えることができるのではないだろうか。「それならきつと、ご先祖様もきつと許してくれる」そう信じて、郡山地区の住民はみんな、断腸の思いで土地提供に同意したものと思っています。

この10年、われわれは多くのものを失いました。土地、家屋、そして地域のコミュニティ。「地域ごとどこかに移住するような施策はできなかったのか？」と思うこともあります。

他の地域の帰還困難区域が解除され、復興する姿を見て、「中間貯蔵施設を受け入れなかったら、もしかしたら10年で帰還できていたのでは？」と思うこともあります。われわれのこの思いを、国と県は重く受け止め、長期にわたり支援していく責任があると思っています。環境省と国には、30年後、現在の郡山地区を誰もが「こんなところなら永住したい」と思えるほどの土地にして、次世代へ渡してほしい。そう強く願っています。



郡山行政区に今も鎮座する正八幡神社。震災後に氏子が建立した石碑、そこに刻まれた想いを知ってほしい